

令和元年 6 月の解説（府県天気予報）

【6 月の天候状況】

太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、日本付近で偏西風が南に蛇行したため、梅雨前線は日本の南海上に停滞しやすくなっていました。このため、前線や湿った空気の影響を受けやすかった沖縄・奄美では雨の日が多く、降水量はかなり多くなりました。一方、本州付近は気圧の谷がたびたび通過したため、北日本から西日本にかけての地域では、天気が周期的に変化しました。北日本の太平洋側と東日本では、低気圧が通過した際にまとまった雨となった所があり、降水量が多くなりました。西日本では、前線や低気圧の影響を受けにくかったため、降水量は少なくなりました。

上旬は、梅雨前線が沖縄・奄美付近から本州南岸に位置しやすく、沖縄・奄美では雨の日が多くなり、大気の状態が不安定となって激しい雨が降った所もありました。7 日から 8 日には低気圧が日本海から日本の東海上に通過したことで、東日本の太平洋側や西日本では大雨となった所がありました。東海、北陸、関東甲信、東北南部では、7 日頃に梅雨入りしました(速報値)。

中旬は、梅雨前線が本州の南海上に停滞しやすかったため、東日本の太平洋側と西日本の太平洋側では曇りや雨の日が少なくなりました。15 日から 16 日には前線を伴った低気圧が西日本から北日本にかけて通過して雨が降り、太平洋側を中心に大雨となった所がありました。東北北部では、15 日頃に梅雨入りしました(速報値)。

下旬は、25 日頃までは梅雨前線が本州の南海上に停滞していたため、東日本と西日本では晴れの日が多くなりました。一方で、上空に寒気が入って大気の状態が不安定となり、激しい雨が降った所もありました。26 日頃には熱帯低気圧が沖縄・奄美に接近し、梅雨前線が北上したことで、九州北部、四国、中国、近畿では梅雨入りしました(速報値)。さらに、27 日から 28 日には、台風第 3 号が本州南岸沿いを通過し、その後は梅雨前線の活動が活発となって、東日本の日本海側と西日本の太平洋側を中心に大雨となった所がありました。29 日頃には、太平洋高気圧の張り出しが強まったことで、沖縄地方で梅雨明けしました(速報値)。

【6 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)よりも 3 ポイント高い 85%で、明後日予報は例年値よりも 3 ポイント高い 80%でした。地方別の適中率では、明日予報は北海道地方と沖縄地方を除く地方で例年値を上回りました。明後日予報は、北海道地方、東北地方、沖縄地方を除く地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.6℃で、沖縄地方で例年値と同じだった以外は、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.0℃で、沖縄地方を除くすべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8 月の天気予報の利用にあたって】

8 月は、台風が日本に接近・上陸することが多く、1981 年から 2010 年までの 30 年間の平均では、接近数は 3.4 個、上陸数は 0.9 個で、それぞれ年間を通して最も多くなっています。台風にもなう暴風、大雨、高潮などにより、しばしば大きな災害がもたらされます。台風が日本付近に接近・上陸すると予想されている場合には、最新の台風情報や気象情報などに十分注意してください。